



第4回 論語指導士 谷口利広（第百三号）奈良県

「命を知らざれば、以て君子たること無きなり。」

私たちの日常を振り返るとき、自分の利益を求め、人を押し退けて前に出ようとすることが多い。そのようなとき、社会は殺伐とした空気に覆われてしまう。だからこそ、他の人を思いやり、あれこれ慮ったりできる人が、「有徳の人」として称えられるのだろう。最も好きな章句は、「生を求めて以て害する事無く、身を殺して以て仁を為すこと有り。」（衛霊公第十五）、「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す。」（雍也第六）である。

孔子は50歳で「天命」を知ったが、私は若いときに「自らの『天命』は何か」などと考えたことはなかった。一般的には、みなさんも私と同じではなかろうか。もう少し早く論語の学びを深めていれば、もしかしたら早い時期に自らの『天命』について考えが及んだのかも知れない。そうであれば、少し違った人生を歩んだのかも。私は70歳だが、遅ればせながら現在は自らの使命について少しは考えたりする。

私の使命は、一つは高齢者の会の役員(町の連合会長)として会の運営をスムーズに運び会員から喜んでいただくこと。もう一つは、現在二つの論語塾(中之島図書館論語塾、三生連論語に親しむ会)の塾長を務めているが、「論語」を講じることを以て、「論語」の普及に少しでも貢献することである。その一環として、5年前から毎朝続けている地域住民の健康増進に貢献することを願って始めた「ラジオ体操会」を、生ある限り継続する。一年365日6時30分からというのは易くはないが、参加者からの「ありがとう」を糧に、協力者の支えで以って日々心を新たに努めている。私の使命は小さなことばかりだが、『天命』として自らの心に刻んでいる。

何気なく生活しているだけでは天命は見つからない。なので、常に自問自答することが求められる。天命が見つかったとしても、努力せずに天命を全うすることは出来ない。天命とは、「自らの人生にどう向き合っていくのか」という姿勢のこととも言える。私は自らの天命を見つめつつ目の前のことに全力で取り組み、他者のために汗をかく行動の実践を通して、天命を全うしていく。



「加地伸行からの百字答礼」

谷口利広様へ。

大阪の中之島図書館で論語塾開設、すごいですね。論語指導士の方が論語塾を開いてくださること、とても嬉しく、ありがたく存じます。ぜひがんばってお続け下さい。その内に、私も生徒として参加いたします。